令和４年度　印旛地区教育研究集会　国語科書写分科会

研究主題

生きる力を育む書写教育のあり方

―基礎基本の習得と日常の書写力の向上をめざして―

令和４年８月２４日

第四部会　八街市立八街北小学校　大坂健人

１　研究主題

生きる力を育む書写教育のありかた
―基礎基本の習得と日常の書写力の向上をめざして―

２　主題設定の理由

学習指導要領では，国語科の目標を「言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。」と示している。

「書写」は，「知識及び技能」の「（３）我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。」に位置づけられ，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった言語活動を支える基礎的役割を担っている。そのねらいは，国語の基礎能力として，文字を正確に理解し表現する能力を養うとともに，文字に対する関心を深め，文字感覚を養い，文字を尊重する態度を育てることである。書写指導においては，各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することである。

具体的には，小学校では文字を書く基礎になる姿勢，筆記用具の持ち方，点画や一文字の書き方，筆順などの事項から，文字の集まりの書き方へと指導していく。それを基礎として，筆記用具を選択し効果的に使用することで，目的に応じた書き方を判断して書くことをねらいとしている。そして，中学校書写において，楷書や行書の特徴をふまえ，目的や必要に応じて書体を選択し効果的に文字を書くことができるようになることにつなげている。

書くことを通して，自分の気持ちを伝え，相手の気持ちを理解しようとする意欲をもち，人との関わりの中で主体的に生きようとする力を育成することは重要なことである。書くことで自分の思考が整理されることもある。しかし，情報化を極めている現代社会において，書く頻度は明らかに減ってきている。八街市では，２年前にタブレット端末が導入され，ノートやワークシートに書くだけでなく，タブレット端末上にまとめる機会が増えてきた。このような現状を踏まえると，書く活動を書写の授業のみならず他教科とも連携を取り合って充実させ，文字を書くことを楽しめるような環境を作っていくことが必要であると考える。

さらに自分の課題をしっかりともって主体的に学び，他者との話し合い活動を取り入れ，自己評価・相互評価をして振り返り，新たな課題を見出せるような活動が必要である。

以上の点から，基礎基本の習得と日常の書写力の向上が「生きる力」を育むことにつながると考え，本主題を設定した。

3　研究のねらい

毛筆での学習を通して，文字の組み立てを理解し，児童一人ひとりの日常の書写力を高めていく。

4　仮説

<仮説１>

・自分の課題にあった教材，教具を選ぶ力を育成すれば，基礎基本を習得することができるだろう。

<仮説２>

・相互評価を取り入れることで学習意欲や文字の組み立て方に対する理解が高まり，学習したことを硬筆に生かせるようになるだろう。

5　研究内容

・児童の実態調査
・題材の工夫
・授業研究と実践

6　研究の経過

２０２２年（令和４年度）

４月・第四部会書写研究部にて協議
　　・主題設定，仮説，実践についての検討
５月・児童の実態把握　・実態調査の確認
６月・授業実践
７月・授業実践　・授業実践のまとめ　・レポート作成
　　・第四部会書写研究部にて提案，協議

7　研究の実際

（１）児童の実態（６学年４２名）

質問	回答	理由（複数回答）
１　あなたは文字を書くことが好きですか。	・好き（１１人） ・どちらかというと好き（１５人）	・小さい時からたくさん書いてきたから ・きれいに書けると嬉しいから ・字を書くのが好きだから
	・どちらかというと嫌い（１４人）	・うまく書けないから ・めんどうくさいから

	・きらい（２人）	・手が痛くなるから
2　きれいな文字を書きたいと思いますか。	・思う（３５人） ・どちらかというと思う（７人）	
3　普段，ノートの字をきれいに書くことを意識していますか。	・意識している（１１人） ・どちらかといえば意識している（２７人） ・どちらかといえば意識していない（４人）	
4　文字を書くときに，どんなことに気をつけて書いていますか。	・とめ，はね，はらい（２２人）・文字の大きさ（６人） ・文字のバランス（２人）・マス目から出ない（２人） ・筆圧，力加減（２人）・丁寧さ（２人） ・文字の大きさ・鉛筆の持ち方・筆順，姿勢，右上がり，まっすぐ（１人）	
5　一つ一つの文字の配置や位置に気をつけて書いていますか。	・気をつけて書いている（１７人） ・どちらかといえば気をつけて書いている（２４人） ・気をつけていない（１人）	
6　一つ一つの文字の配置や位置に気をつけるのは，どんなことに生かせそうですか。	・掲示物（１５人）・ノート（１２人） ・名前がきれいに書ける（３人）・新聞（２人） ・文字のバランスがわかる（２人） ・提出物（２人）・作文（１人）・習字（１人） ・その他（４人）	

【考察】

質問１では学年内の約６４％が文字を書くことが好きという一方で，約３８％が嫌いと答えている。好きだという理由は「小さい時からたくさん書いてきたから」「きれいに書けると嬉しいから」「字を書くのが好きだから」と挙げている。きらいと答えた児童は，「うまく書けないから」という理由が大半であった。また，質問２，３では，ほとんどの児童が「きれいな文字を書きたい」「普段ノートの字をきれいに書くことを意識している」と答えている。質問１～３のことから，きれいな文字を書けるようになりたいという意欲は全員がもっているが，それができないことで文字を書くことがきらいになってしまったと考える。

質問４では，文字を書く際に気をつけていることとして，半数以上の児童が「とめ，はね，はらい」と答えた。それ以外の回答についてはばらつきが見られた。質問５，６では，一つ一つの文字の配置や位置に気をつけているという児童が半数以上おり，掲示物やノートに生かせそうという意見が多かった。

事前に行った硬筆のアンケートでは，「貝」「則」「測」の三字を確認した。意識調査の通り，とめ，はね，はらいに気をつけて書けてはいるものの，マス目の大きさに合わせて文字が書けていなかったり，へんとつくりが離れてしまったりしている児童も多く見られた。「測」については，今回の単元と同じである三つの部分の組み立てから成る漢字である。三つの部分の組み立てができている児童が多くいる一方，三つの部分の大きさがそろってい

たり，高さや幅がバラバラになってしまったりした児童もいた。また，普段の学習ノートを確認すると，必要以上に文字をつめて書いていたり，丸文字になっていたりする。今回の学習では，毛筆学習を通して，とめ，はね，はらいなどの基礎的な力に加え，文字の組み立て方や書く際の配置なども身につけさせ，硬筆に生かせるようにしたい。

本単元では，これまで学習してきた文字の組み立て方の総まとめとして，三つの部分の組み立て方の学習を行う。それぞれの部分が狭くなり，大きさや形の変化が生じることに気づかせ，試書を通して自分自身の課題を発見させていく。そして，課題解決のために必要な手立てを考え，解決に向かう力を育みたい。また，毛筆学習の最後に相互評価を行い，観点の再確認をしたり，良いところに気づかせたりして自己肯定感を育み，硬筆学習への意欲や技能を向上させていく。

（２）仮説との関連

<仮説１>

自分の課題にあった教材，教具を選ぶ力を育成すれば，基礎基本を習得することができるだろう。

〇各自の課題を明確にする。

・試書をもとに，手本に課題を書き込み，常に意識させる。

〇自分で課題解決の方法を選ぶ。

・課題に対して，数種類の中から練習方法を選べるようにする。

・かご字，骨書き等の方法以外に ICT を活用する。

・かご字や骨書き等で改善できる箇所を理解させる。

<仮説２>

相互評価を取り入れることで学習意欲や文字の組み立て方に対する理解が高まり，学習したことを硬筆に生かせるようになるだろう。

〇友達の良いところを見つける。

・文字の組み立て方に対する理解度が深まり，観点の再確認ができるようにする。

・自分では気がつかなかった良さを教えてもらうことで，自己肯定感と学習意欲の向上を図る。

8　授業実践

（１）　単元名　文字の組み立て方（三つの部分）

（２）　単元について

本単元では，『湖』を教材に，これまで学習してきた文字の組み立て方の総まとめとして，三つの部分の組み立て方の学習を行う。

四年生では，左右の組み立て方である『林』『土地』，上下の組み立て方である『笛』『岩山』，五年生では，中と外の組み立て方である『草原』『道』の毛筆教材を通して，点画同士のゆずり合いを学習してきた。

三つの部分の組み立て方では，それぞれの部分がさらに狭くなり，大きさや形の変化が生じる。『湖』では，「さんずい」が「古」の一画目につながるように上にはねることに気づかせるとともに，中心にある『古』の部分について，幅だけでなく高さも低くなり，『月』の「左はらい」とゆずり合っていることに着目させたい。硬筆教材で示した『街』『働』も同様である。また，三つの部分の組み立て方の文字は画数が多くなる。筆圧のかけ方を工夫して，細い線を書けるようにさせたい。

「硬筆の学習　文字の組み立て方（左右，上下，中と外）」では，毛筆で学習したことを生かして，組み立て方の構成について確かめる。『衛』『測』『術』は中の部分が大きいのは，文字の大きさと画数の関係がある。さまざまな文字例にふれることで，原則・原理を発見し，新たな文字に出会ったときにも字形を整えて書く力を養うことを最終的なねらいとする。

（３） 単元の目標

〇文字の組み立て方（三つの部分）に気をつけて書くことができる。【知識及び技能】

〇三つの部分の幅やゆずり合い，字形の変化に気をつけて，硬筆で書くことができる。【知識及び技能】

〇三つの部分の組み立て方について考えることができる。【思考力，判断力，表現力】

〇三つの部分の組み立て方に気をつけて，一文字としてまとまりのある文字を書いている。【学びに向かう力，人間性等】

（４）指導計画（４時間扱い）

時配	学習内容	留意点
1	〇三つの部分の組み立て方について理解することができる。	・三つの部分で大きさが異なることを意識して書かせる。 ・次時に向けて，観点を意識して自分の課題を見つけさせる。
2	〇三つの部分の組み立て方について理解し，字形を整えて書くことができる。	・練習教材の工夫をして，自分で選べるようにする。
3	〇相互評価を行い，友達の良いところを見つけたり，助言をしたりすることができる。	・観点を確認し，観点に基づいた評価をできるようにする。

4	○左右，上下，中と外の組み立て方に気をつけて，硬筆で書くことができる。	・毛筆で学習したことを生かして書かせる。

（5）本時の指導（2，3／4）

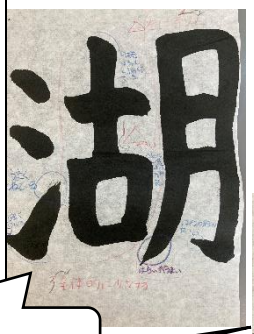
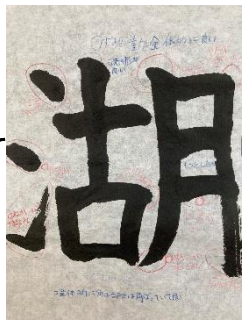
①目標

○三つの部分の組み立て方に気をつけて，字形を整えて書くことができる。

○三つの部分の組み立て方を確かめて，硬筆で字形を整えて書くことができる。

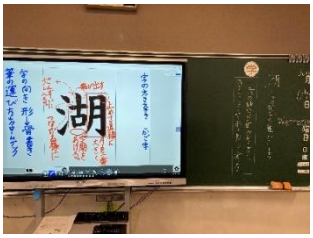
②展開

（2/4）

時配	学習活動と内容	・指導支援　○評価　※特別な配慮	資料
3	1　学習課題を確認する。 三つの部分の組み立て方に気をつけて，字形を整えて書こう。		
5	2　前時のまとめ書きをもとに，試書をする。	・前時で自分の課題を赤鉛筆で書き込んだものを配付する。	前時のまとめ書き
5	3　今日の課題を手本に書き込む。 ・前時での課題の中から，今日の課題を一つ選び，赤で手本に書き込む。二つ目を選ぶ際は，青鉛筆で書き込む。 さんずいの位置に気をつける。 「古」を小さくしよう。	・今日の課題を明確にさせるために書かせる。  	
２０	4　自分の課題に合った方法で練習をする。 ・字形を整えるために骨書きをしよう。 ・穂先の通るところを確	・本時の目標や自分の課題を踏まえて，書くように指示し，骨書き，かご字，チャレンジ文字，紙の折り方，タブレット PC の活用等の中から選ぶようにする。	各シート デジタル映像

	かめるために，かご字を使おう。 ・運筆を知るためにタブレット PC で動画を見よう。	※適切な練習方法を選ぶことができない児童には，個別に声をかける。 ・本時の目標や自分の課題を踏まえて，書くように指示する。	
5	5　まとめ書きをする。		
7	6　振り返りをする。 ・手本と比べて，文字の組み立て方や自分の目標に対して，振り返りをする。	・まとめ書きを振り返らせ，三つの組み立て方や個人の目標に対しての評価を書く。 ○三つの部分の組み立て方に気をつけて，字形を整えて書いている。	振り返りシート

（3/4）

時配	学習活動と内容	・指導支援　○評価　※特別な配慮	資料
3	1　学習課題を確認する。 これまでの学習を振り返り，硬筆に生かそう。		
１０	2　相互評価を行う。 ・３～４人グループに分かれて行う。	・試書とまとめ書きを比較し，良くなったところを書くようにする。また，助言も書けるようにする。	付箋 試書 まとめ書き
１０	3　全体で共有する。 ・「古」が小さく書けていていいね。 ・三つの文字のバランスがよくなっていていいね。 ・「月」が細長くなったね。	・試書とまとめ書きを並べて，写真を撮り，電子黒板やタブレットを活用し，共有できるようにする。	
5	4　硬筆に生かすには，どのようなことに気をつければよいか考える。 ・三つのバランスに気をつける。 ・点画のつながりを意識す	・電子黒板を活用し，共有する。 	

	る。 ・中心を意識する。		
5	5　硬筆で「湖」を書く。 こんなに意識して書いたの初めて！	・硬筆に生かすために気をつけることを意識して書くようにする。 ・毛筆で立てた課題に気をつけて書くようにする。 ・硬筆でどのように生かせるか確認する。	ワークシート
１０	6　三つの部分からなる漢字を探す。		
2	7　探した漢字を発表する。 八街の「街」もそうだね。 「測」もあるよ。	○三つの部分の組み立て方に気をつけて書くことができる。	

9　研究の成果と課題

成果

○事後のアンケートでは，ほとんどの児童がタブレット PC で動画を活用し，さらに，「運筆，文字のバランス，筆順などを理解するために活用した」と回答しており，視覚的な効果が高かったといえる。

○事後のアンケートでは，まず初めにタブレット PC を活用し，何回か練習した後，再度活用したという回答があった。授業中の様子を見ると，タブレット PC で動画を見ながら書く児童も多数おり，教育的効果が高かった。

○課題解決の手立てを自分で考え，各課題にあった方法で練習したことで，毛筆での技能の向上がみられた。

○相互評価を行い，観点に沿って評価することで，文字の組み立て方に対する理解が深まった。

〇相互評価を行い，自分では気がつかなかった良いところを教えてもらったことで，「文字を書くことが好き」と答えた児童の割合が増えた。

〇硬筆の「貝」「則」「測」の事前，事後アンケートを比較すると，本単元で学習したことを生かしている様子がみられた。特に，「測」の貝の大きさを意識することができていた。

課題

●各自の課題をもたせた際，「おれ，はね，はらい」などの課題が多く，本単元の目標である文字の組み立て方とは，合わないところがあった。そこに対して，授業内で修正することができなかった。

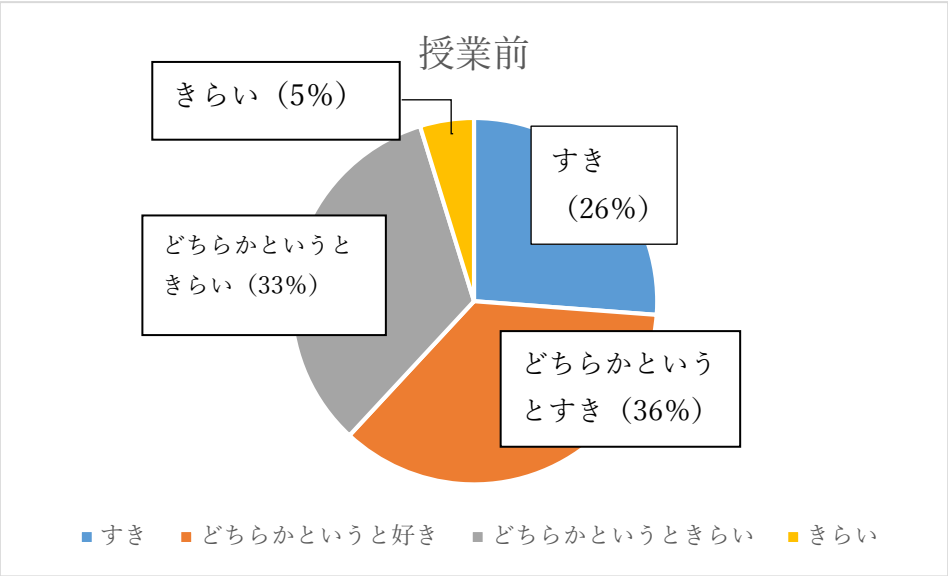
●相互評価では，各自の課題に対して行い，試書と比べて評価していた。しかし，三つの部分の組み立て方について評価していない児童もいた。そのため，相互評価を行う際には，三つの部分の組み立て方についての評価と各自の課題についての評価を分ける必要があった。

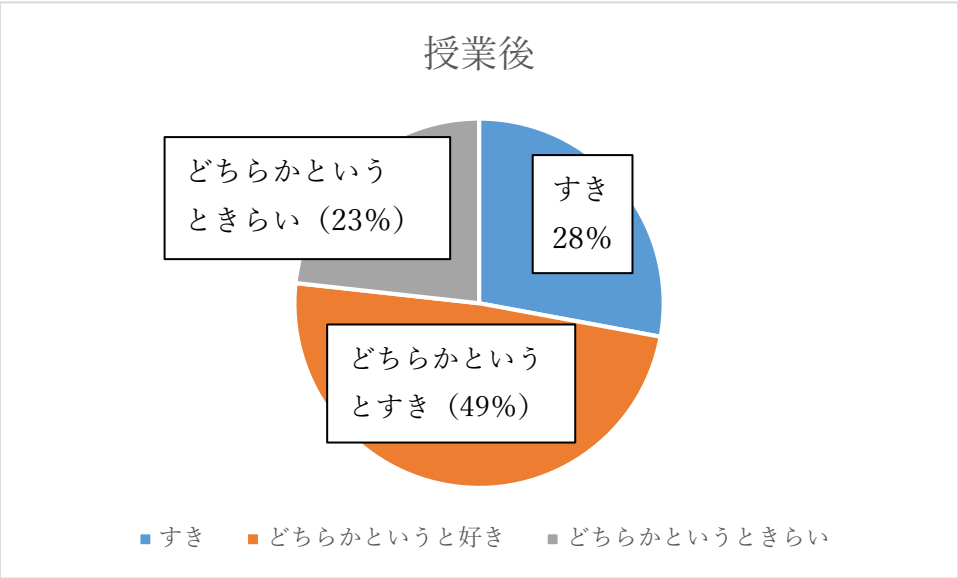
●「毛筆を硬筆に生かす」という学習のゴールを，教師が最初に提示して，児童にしっかりと意識させることができていなかった。また，３時間目の授業では，相互評価を行った後に硬筆に取り組ませたが，児童の思考がそこで切れてしまったように感じた。事後アンケートでは，硬筆に生かすことができたと答えた児童が多かったが，その後のノート等を見ると，日常生活では生かすことができていない児童が多い。

●第４時の硬筆では，文字の組み立て方については理解することができたが，実際にその観点に基づいて書くことはできていない児童が多かった。

資料編

1　北小児童の意識の変容





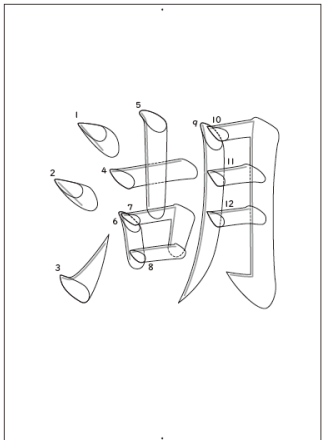
2　教材，教具の工夫

<児童に配付した動画の画面>

〇上手に書くためのポイント動画！

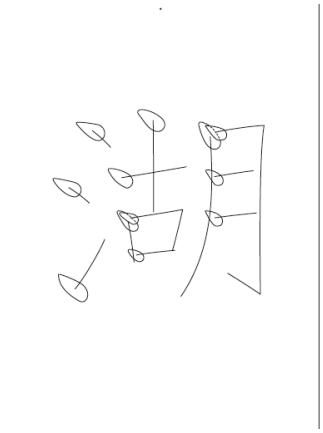
<ICT の動画を活用している様子>

<かご字>



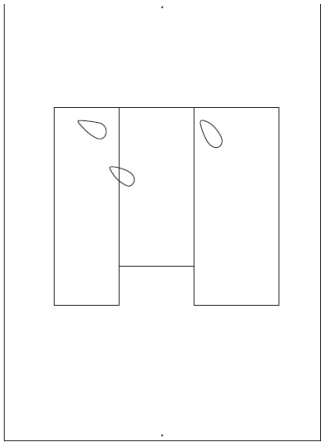
<児童がかご字を使用した理由>
・バランスを整えるため
・穂先の通るところを確認したかったから
・字形を確認するため
・形や大きさがわかるから
・線の太さがわかるから

<骨書き>



<児童が骨書きを使用した理由>
・始筆の場所を知りたいから
・筆の向きを確かめるため
・字形を確認するため

<チャレンジ文字>



<児童がチャレンジ文字を使用した理由>

・骨書きで始筆を理解した後，レベルアップさせたかったから

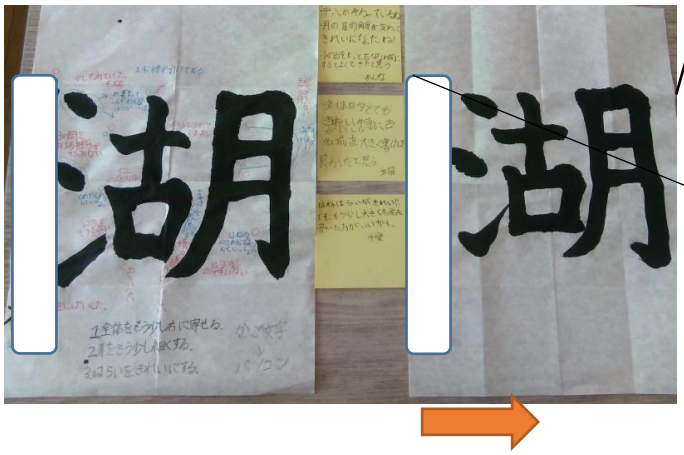
・半紙で書く前に，大きさを意識したかったから

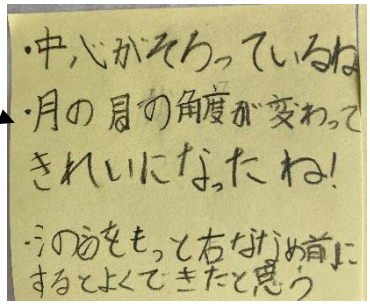
3　授業の様子

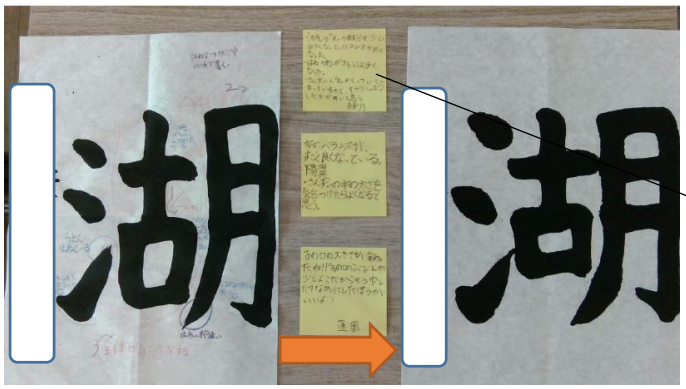
学習教材を選ぶ

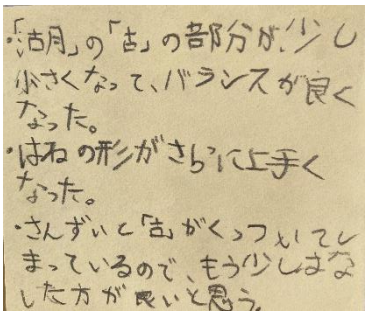
グループでの相互評価

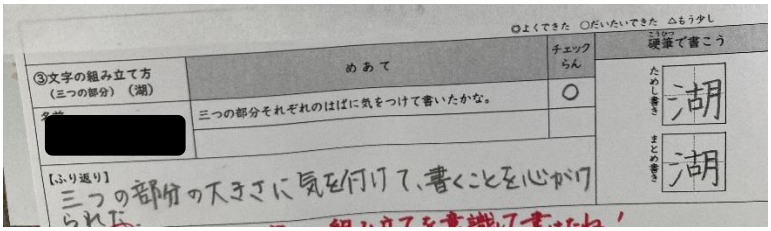
児童の作品の変容とふせん





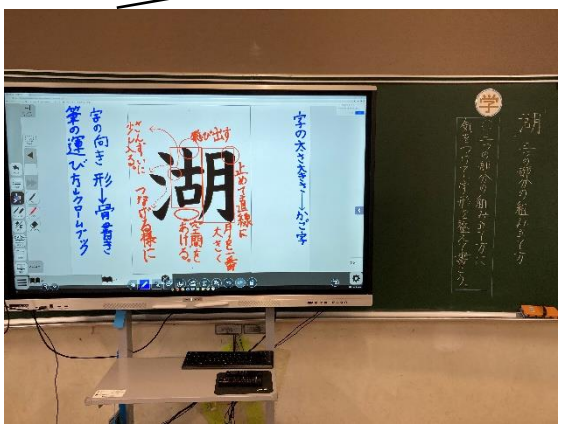


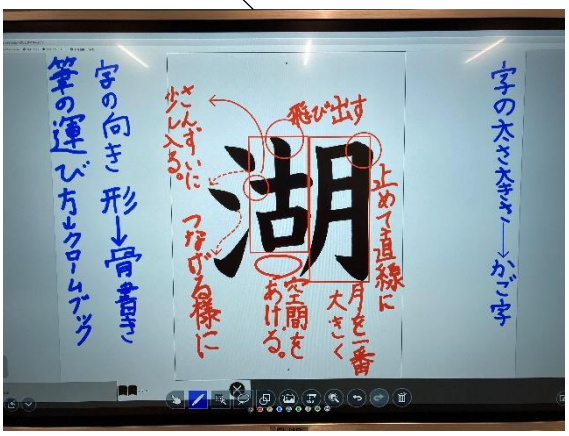




自己評価

電子黒板を使用した板書

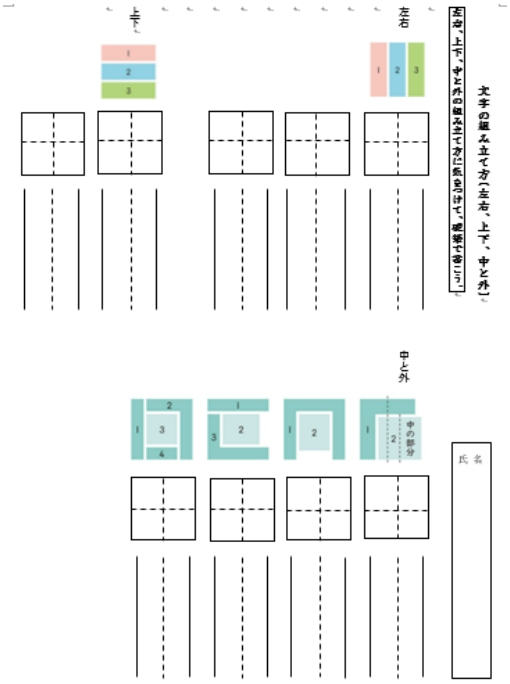




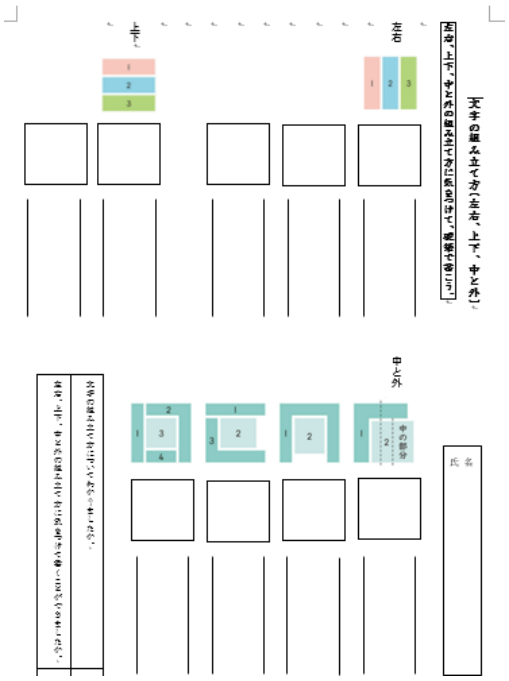
教師による個別指導

4　硬筆について

・練習用

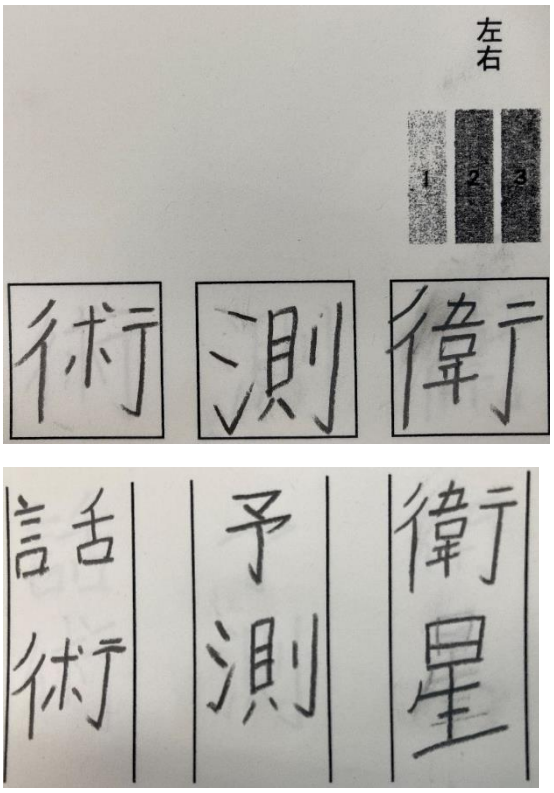


・まとめ書き用



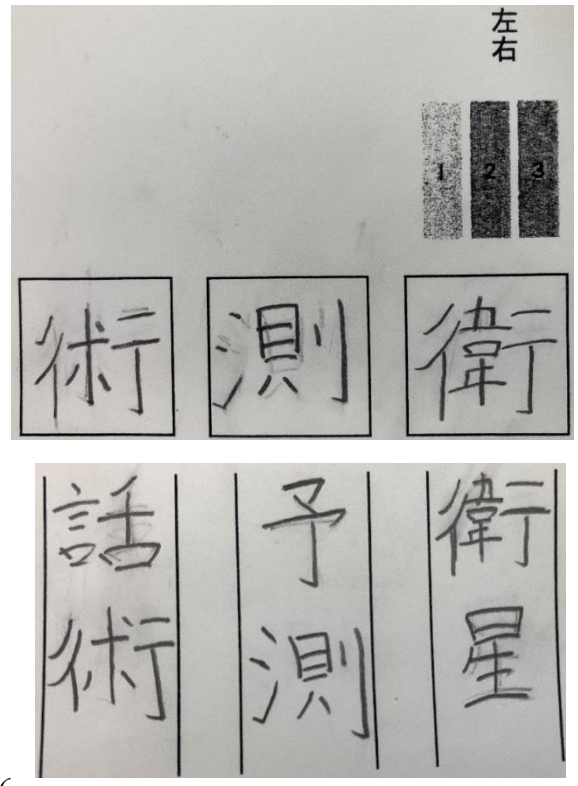
A 児童（毛筆ではほね字を活用）

・バランスがとれるようになった。

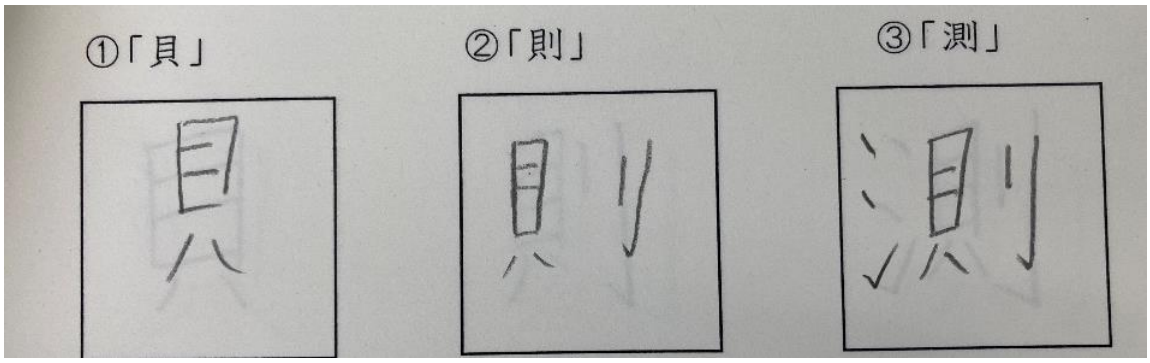


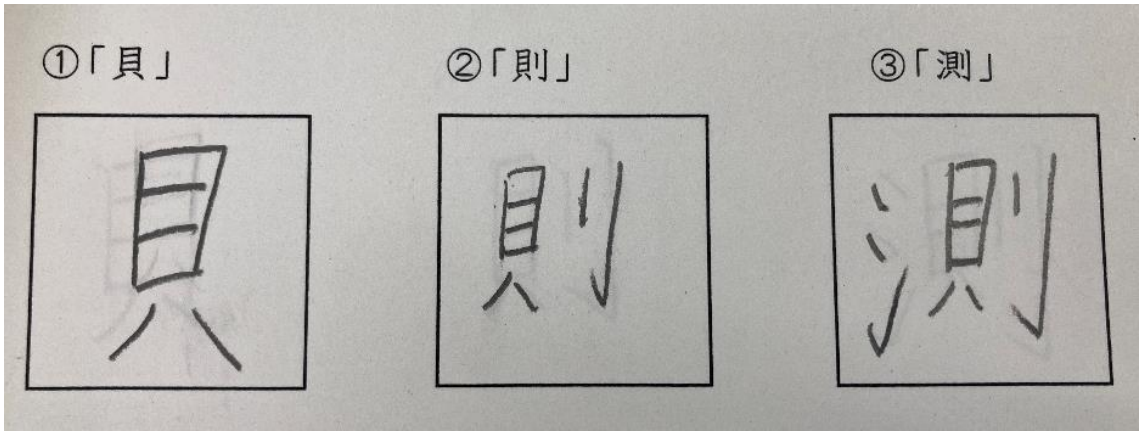
B 児童（毛筆ではかご字と ICT を活用）

・中心がとれるようになった。



A 児童の硬筆の変容





〈交進小学校〉

・児童数４１名

・成果と課題（○が成果，▲が課題）

<ICT の活用について>

○ICT 機器では,「ここに気をつけましょう」などの解説が入っているため，わかりやすい。

○筆の置き方，運筆の仕方がわかる。まねするように書くと，上手に書けた。

▲ワークシート（かご字・骨字・チャレンジ文字）を使う方が大きさやバランスを捉えやすいと感じた児童が６割いた。→ICT を使っていなかった児童が多かった。

▲机の上が習字道具でいっぱいになっているため，「見ながら書く」という作業に苦戦していた児童がいた。

→自分のタブレットではなく，教室にあるテレビ（交進小には移動式の電子黒板があったので使いました）で一斉に見てポイントを説明する，電子黒板上にポイントを残しておく，という方法が１番よかったです。

<毛筆の観点を硬筆に生かせたか（変容が見られたか）>

○毛筆で「バランス」「中心」「大きさ」に注意して指導したため，硬筆で書くときに，中心線に「古」の２画目が書ける児童が多くなった。「氵」の始まりも意識して書いていた。児童自身も，「自分の字が上手になっている」と成果を実感していた。

▲筆の置き方・持ち方が直らない児童は，毛筆でも硬筆でも丸文字になったり「とめ・はね・はらい」ができなかったりした。

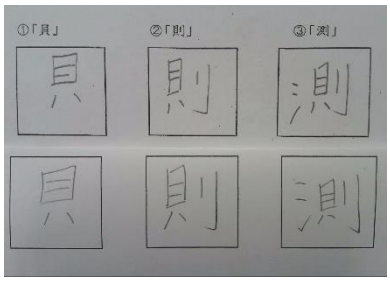
<相互評価について>

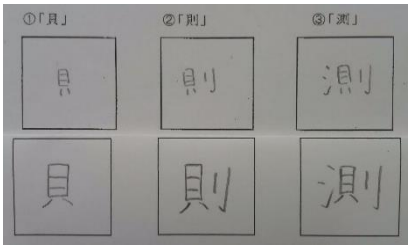
○成果→赤，課題→青で評価をさせた。課題については１人１つ，成果については書けるだけと指示を出した。自分では気づけない課題を友達から聞くことで，納得している児童が多かった。

▲ポイントがわかっていないと，ふせんが書けなかった。４時間分，めあてをしっかり意識させて，常に考えながら書かせることが大切だと感じた。

左↓試書　右↓まとめ
筆の置き方やバランスの変容がみられる。

上↓授業前　下↓授業後
「氵」の位置や字形が改善された。
ほかの児童も，バランスに気を付けて書けるようになっていた。



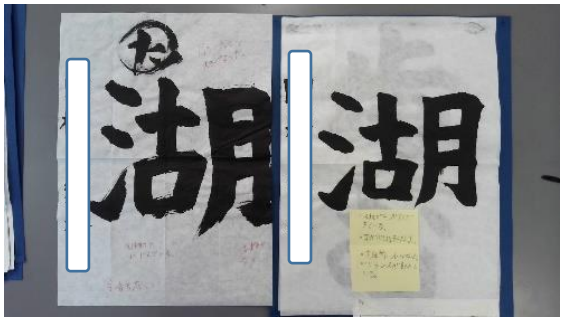
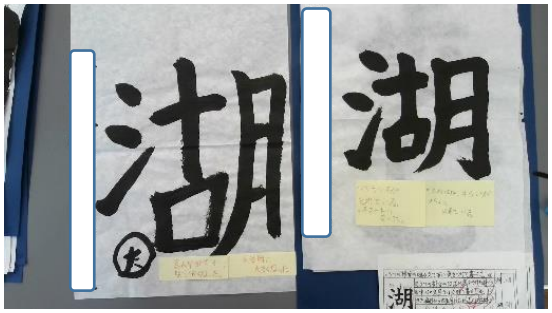
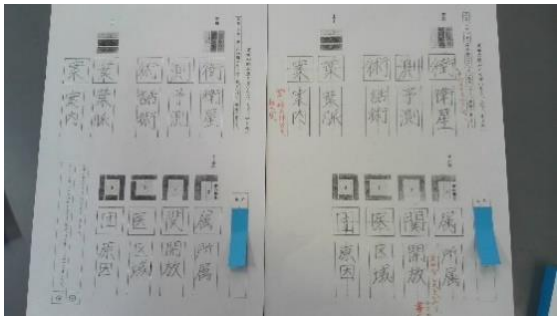
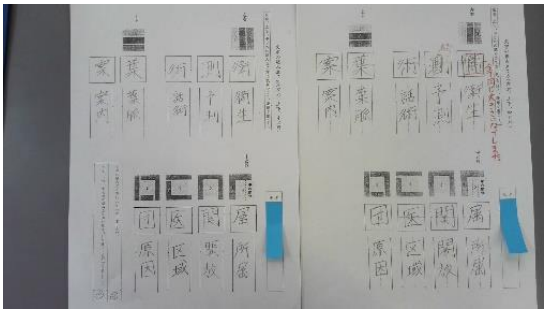


〈八街東小学校〉

・児童数１２０名
・成果と課題（○が成果，▲が課題）

<毛筆の観点を硬筆に生かせたか（変容が見られたか）>
○毛筆で学んだ３つの部分から成る文字の組み立て方をよく理解していた。
○３つの部分から成る文字を書く時は，中心の文字を小さめに，左右を細長に書くことができた。
▲硬筆で上下，中と外の組み立て方の文字を書くときに３つの部分の組み立て方で学んだことを応用できない児童がいた。日頃から毛筆で学んだことを硬筆で生かすように指導しているが意識の差があり，なかなか定着しないのが現状である。

<相互評価について>
○友達の試し書きとまとめ書きを比べて，上手になったところをめあてにそって見つけることができるようになった。
○評価する前に，視点をきちんと確認しないと，学習のめあてに沿った評価ができなくなってしまうので，積み重ねが大切である。回を重ねて作品の見方が分かり，的確なアドバイスができるようになった。
▲自己評価は毎時間やっているが，相互評価は時間がなくて，できないことがあるので課題。（専科なので時間が限られている。）

〈実住小学校〉

・児童数１２６名

・成果と課題（〇が成果，▲が課題）

<ICT の活用について>

〇書いて終わりにするのではなく，記録したものを比較しながら次の自分の課題を考え，学習に取り組むことができた。

〇試書と清書とを並べ，写真にとった作品に直接書き込むことで児童の頑張った部分がよりわかりやすくなった。

▲書写の道具，児童の端末など必要な用具が多く，時間がかかった。また，初めての活動であったため，やり方を説明するための時間が必要であった。

<毛筆の観点を硬筆に生かせたか（変容が見られたか）>

〇普段マス目に対して小さめに字を書いている児童が，半紙に書くときと同じように大きさを意識して書くことができた。

〇大きさのバランスが崩れやすい字を，幅をそろえようとして書く意識をもつことができた。

▲毛筆と硬筆を分けて考えている児童が多く，毛→硬がどのようにつながっているのかを児童がわかりやすく体験できる手立てが必要だった。

<相互評価について>

〇上手な児童の点画を参考にして，自分の作品を振り返るなどグループ活動ならではの効果が見られた。

〇発表をあまりしない児童がどの部分に気をつければよいかを発言するなど，児童の活躍の場を広げることができた。

▲作品に付箋を直接貼るのに抵抗があったため，横に貼って写真を撮った。JamBoard を用いて，写真に撮ったもので相互評価を行い，JamBoard の付箋機能を使うのでもよいのではないかと感じた。

▲事前に相互評価のグループ作りを考慮する必要がある。

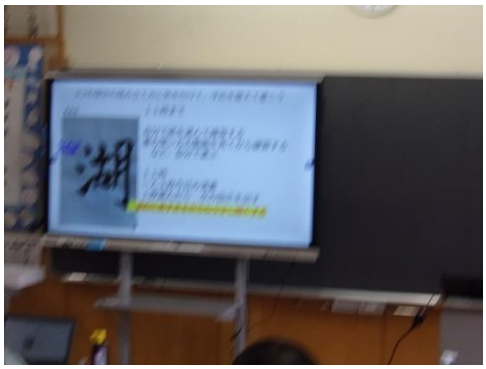
〈二州小学校〉

・児童数２４名

・成果と課題（〇が成果，▲が課題）

<ICT の活用について>

〇常に書写の学習では，教師が手本を書く際に手元・筆先を映しながら実施しているので，穂先の動きなどははじめに確認できる。さらに，今回は個人で選択して活用しながら進めたのでポイントもわかり，いつもより形の整った字を書くことができた。



<毛筆の観点を硬筆に生かせたか（変容が見られたか）>

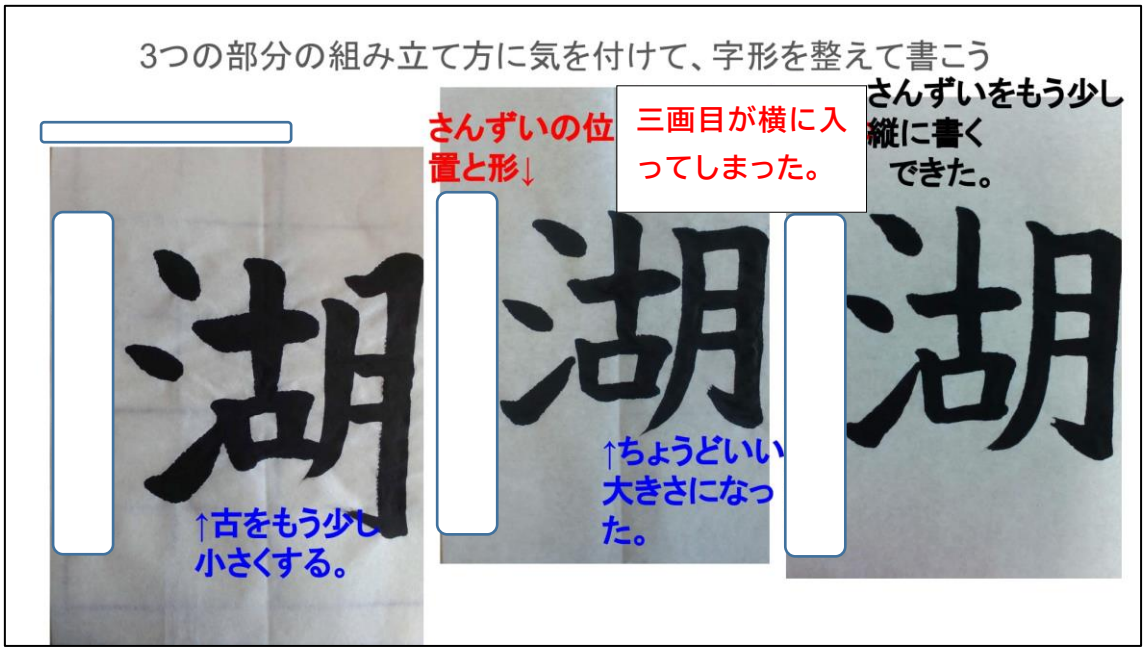
▲あまり変容があったとは判断できかねる

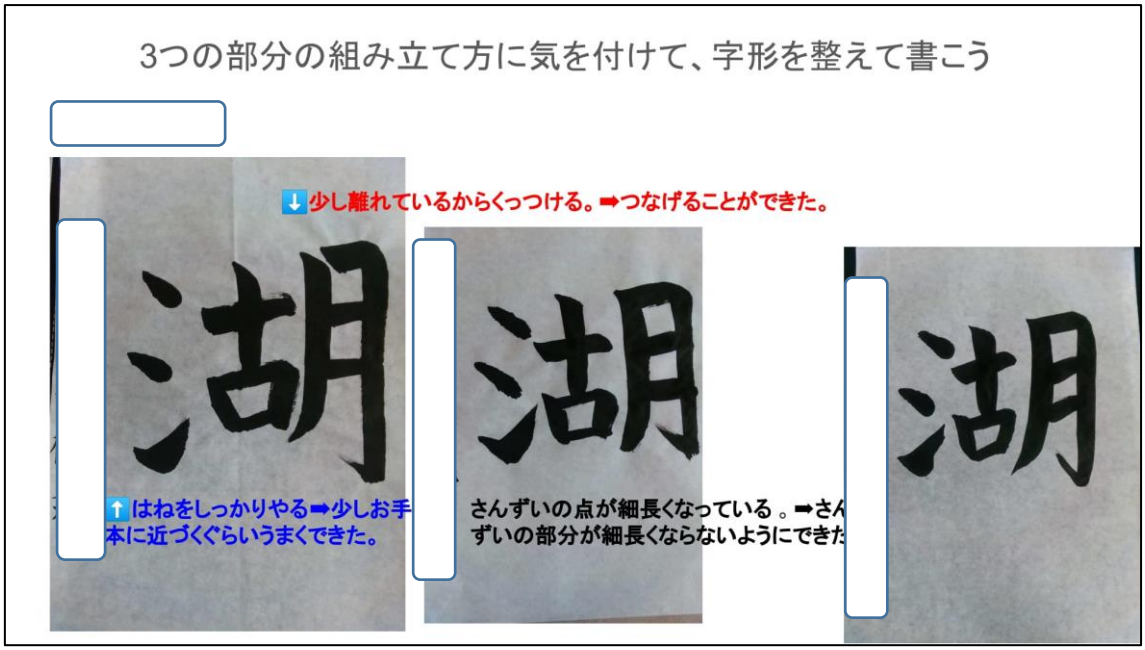
<相互評価について>

〇お互いの作品を確認して，よいところを探したことで，字を書く際の視点の確認にもなっていたのでよかった。

▲視点は絞られるので，相互評価が高まったとはいいがたい。

一人一人が作成，試書→確認→清書で一枚ずつ貼って自分のめあてや反省を入力
作品と一緒に掲示
もともと上手な子も，そうでもない子も，しっかりと自分の作品に向き合えた





〈笹引小学校〉

・児童数２０名
・成果と課題（○が成果，▲が課題）
<ICT の活用について>
○視覚的に筆の動きがわかり，効果的であった。
▲個々に見て書くのは，クロームブックを置く場所がなく，スペースが必要。
　実質的に，教室では無理がある。

<毛筆の観点を硬筆に生かせたか（変容が見られたか）>
○硬筆の時間をしっかりととったことで，硬筆で自分に生かそうとする児童が多かった。
▲毛筆での練習時間が限られているため，もっと何回も練習ができればさらに硬筆にも生かせるのではと思った。

<相互評価について>
○お互いに見合うのは効果的な活動だった。
▲観点をはっきりさせ（理解させ）見合うことをしないと意味がなくなる。
▲時間が必要。清書した作品は掲示しているので，教師が意識して見させることや，
　時々付箋を使って意見交換することはよいと感じた。

〈朝陽小学校〉

・児童数　８３名
・成果と課題（○が成果，▲が課題）
＜ＩＣＴの活用について＞
○運筆の仕方について，繰り返し確認することができた。
○全体指導において，教師が筆を持たずにポイントを説明できるのがよい。
▲特になし。

＜毛筆の視点を硬筆に生かせたか（変容が見られたか）＞
○字形を意識して，書くことができていた。

＜相互評価について＞
○よく書けているところを子供たち同士で具体的に伝え合うことで，単調になりがちな書写の学習において，意欲の継続が見られた。
▲あくまでも近隣の児童同士の交流に制限した。(筆が転がる，墨がこぼれるなどを防ぐ為)

〈四部会として〉

＜ＩＣＴの活用について＞

タブレット PC を用いて，児童が見たいときに動画を見ることができた。視覚的に確認できたことで，文字の組み立て方がより理解できていたと考える。また，試書とまとめ書きを比較し記録に残すことで，成長した点や課題が分かりやすくなった。

一方，タブレット PC を机上に出すことでスペースが狭くなってしまった。１学級あたりの児童数が少なければ，机を増やすなどの対応ができるが，大規模校や学級の人数が多いところは新しく対応ができなかった。

<毛筆の観点を硬筆に生かせたか（変容が見られたか）>

毛筆で学んだことを硬筆で生かそうとする姿勢が多く見られた。しかし，毛筆と硬筆がつながっていることを理解させるための手立てが不十分であったことも事実である。今後も日頃より，指導者がそのことを丁寧に指導していく必要がある。

＜相互評価について＞

相互評価をすることで，観点の再確認をすることができた。また，良くなった点を伝えあうことで，学習意欲の向上が見られたり，観点に沿って助言ができたりするようになってきた。課題としては，単元を通して観点を確実に抑えないと，相互評価の意味がなくなってしまうことや，時間が多くかかってしまうことが挙げられる。

＜今後に向けて＞

四部会としては，書写指導の際に，「きれいで美しい文字」を目指すのはもちろんだが，まずは「正確に，丁寧に書く」という基本的なことを意識して，しっかり指導していきたい。また，ICT ついて，書写指導において教育効果をより高められるように活用の仕方を考えていく。